

# 第46回東北建築賞作品賞選考報告

選考委員長 馬渡 龍

## 1. 応募作品

- ・小規模建築物部門 7 作品
- ・一般建築物部門 12 作品
- 計 19 作品

## 2. 選考経過

- (1) 事前打ち合わせ会議 2025年9月5日(金) 10:30~11:10  
於 オンライン (Zoom)

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

- (2) 東北建築作品発表会 2025年10月4日(土) 9:50~13:45  
於 オンライン (Zoom)

第35回東北建築作品発表会において応募された作品の発表が行われた。アフターコロナであるが、東北地方に建設された建築物を全国の人に知っていただくことを目的にオンラインで開催した。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

- (3) 第1次審査会 2025年10月4日(土) 15:30~16:30  
於 オンライン (Zoom)

東北建築作品発表会終了後、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、小規模建築物部門、一般建築物部門を別々に選考せず、全作品の中から最大1人10票以内で投票した。各委員の投票および発表内容を総合的に考慮した結果、5票以上を獲得した小規模建築物部門4作品、一般建築物部門6作品の合計10作品を第1次審査通過とした。

次に、現地審査は1作品につき2名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された10作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、施設管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行うこととした。

なお、1次審査の落選者へは200字程度の講評を選考委員分担で作成し、選考委員会として送付することを確認した。

### (4) 現地審査

現地審査については11月と12月に選考委員で分担して実施した。

- (5) 第2次審査会 2026年1月31日(土) 13:00~16:30  
於 日本建築学会東北支部会議室

馬渡委員長より全体の進め方の確認と、事務局から内規の確認があった。また討議により、各委員の投票数は最大5票、かつ1作品1票とすることを決定した。その後、1作品ずつ現地審査担当委員からスライド資料等により報告がなされた後、ほかに現地を確認した担当委員からも印象や評価すべき点が報告された。報告を受けて、それぞれの作品ごとに、審査の評価ポイント等についての討議を参加の委員全員で行った。すべての作品の紹介と討議が終わった後に、出席の全委員による投票を行った。投票の結果、作品賞は小規模建築物部門から2作品、一般建築物部門から4作品の合計6作品が選定された。特別賞は一般建築物部

門から1作品、作品新人賞新人賞は小規模建築物部門から2名が選定された。

#### (6) 総評

第46回東北建築賞作品賞選考には小規模建築物部門7作品、一般建築物部門12作品の応募がありました。計19作品は、すべてが様々な用途と多彩なデザイン・アプローチによる作品で、非常に質が高く充実した選考となりました。応募いただきました設計者・施工者の皆様にこの場をお借りし篤く御礼申し上げます。

今回選考を経て選定された作品賞6点は、いずれも利用者や地域住民との意見交換・ワークショップなど「対話」を重ねる過程のなかで丁寧に建築にされたものが多く、完成後も生き生きとした空間として利用されていることが印象的でした。また、東北の気候・風土・文化という観点に対しても真摯に応答している痕跡が随所に見られる極めて秀逸な作品が選考されました。

特別賞の1作品は、建築作品としての質の高さもそうですが、作品の背景にひろがるまちを入念に観察され建築化を試みようとした点が大変印象的でした。

東北建築賞作品賞選考は、東北各地で日々繰り広げられる建築活動の成果が集結し、審査会という場において設計者と審査員との「対話」が重ねられる希少な機会です。こうした「対話」の積み重ねが東北の建築文化を前進させる一助となれば幸いです。

#### (7) 選考結果

## 作品賞6作品

小規模建築物部門

### 天童荘うなぎ勘治郎

【施主】株式会社天童荘 / 代表取締役 伊藤 豪

【所在地】山形県天童市鎌田2-1-8

【設計監理】結城光正一級建築士事務所 / 結城 光正

【施工】米木建設株式会社

小規模建築物部門

### 滝観洞観光センター受付施設

【施主】住田町

【所在地】岩手県気仙郡住田町上有住土倉 298-81

【設計監理】建築／アトリエハレトケ（長崎辰哉）・武山大樹建築設計事務所（武山大樹）  
構造／長谷川大輔構造計画（長谷川大輔）  
設備／三浦建築設備設計（三浦亮）

【施工】住田住宅産業（中野和人・荻原一郎）

一般建築物部門

### 大熊町大野駅西交流エリア CREVA おおくま・クマSUN テラス

大熊町産業交流施設 -CREVA おおくま-

【施主】大熊町

【所在地】福島県双葉郡大熊町大字下野上字大野 116-5

【設計監理】建築設計／清水建設・関・空間設計 特定建設工事共同企業体  
構造設計／清水建設・関・空間設計 特定建設工事共同企業体  
設備設計／清水建設・関・空間設計 特定建設工事共同企業体

【施工】清水建設株式会社東北支店

大熊町大野駅西商業施設・広場 -クマ SUN テラス-

【施 主】大熊町

【所 在 地】福島県双葉郡大熊町大字下野上字大野 116-6

【設計監理】建築設計／清水建設・関・空間設計 特定建設工事共同企業体  
構造設計／清水建設・関・空間設計 特定建設工事共同企業体  
設備設計／清水建設・関・空間設計 特定建設工事共同企業体

【施 工】清水建設株式会社東北支店

一般建築物部門

## アグリカレッジ福島-アグリ探求棟・屋外作業準備棟・一般宿泊棟・学生寮-

【施 主】福島県

【所 在 地】福島県西白河郡矢吹町一本木 446-1

【設計監理】建築／辺見設計・C+A 共同企業体  
構造／ホルツストラ  
設備／ZO 設計室、(監理) 創スペース  
外構／SfG ランドスケープアーキテクト  
照明／岡安泉照明設計事務所  
音響／明治大学 上野佳奈子  
サイン／imamoi

【施 工】建築・外構／藤田建設工業  
空調・衛生／山田設備工業  
電気／高柳電設工業

一般建築物部門

## にしかわイノベーションハブ TRAS

【施 主】西川町

【所 在 地】山形県西村山郡西川町間沢300-1

【設計監理】建築／ツキノワ 伊東優・田中伸明  
構造／Graph Studio 福島佳浩  
電気設備／山田電気管理事務所 山田俊一  
機械設備／サトウ設備図計 佐藤圭一  
ランドスケープ／ふるうち設計室 古内時子  
環境解析／東京理科大学 高瀬幸造  
サイン／吉太郎デザイン 奥山千賀

【施 工】建築／升川建設  
電気設備／東照電気  
機械設備／KOEI  
木躯体・プレカット／シェルター  
外構／八松園

【工 芸】土田健 (陶芸)・志田菊宏 (木地細工)  
上野明 (めのう細工)・シブヤナオ (和紙漉き)  
せいのまゆみ (和紙照明)・伊東広 (つる細工)  
長谷川瑞輝 (テキスタイル)

一般建築物部門

## 平川市新本庁舎

【施主】平川市

【所在地】青森県平川市柏木町藤山25-6

【設計監理】建築／NASCA・八洲・構設計共同企業体 古谷誠章、進藤勝人、早坂陽、杉下浩平、前田卓、李東勲（\*元所員）、大森葉月、小坂諭美\*、木寅大河、和泉マリア\*、石鉢幸子、佐藤竜司、岩渕大、藤田藍  
構造／（庁舎棟） Arup 与那嶺仁志、藤原圭吾、小林準也、菊地淳哉\*  
（車庫棟） 星野建築構造設計事務所 星野修一、北嶋美由希  
機械設備／Arup 橋田和弘、増井周平  
電気設備／Arup 向井一将、シアメイチン  
サイン／寺澤事務所・工房 寺澤徹、寺澤知実、寺澤由樹  
防災計画／明野設備研究所 土屋伸一、小池悠豊  
ランドスケープデザイン ディレクション／設計組織プレイスメディア 宮城俊作、高橋宏樹\*  
【施工】1 期工事 清水建設株式会社東北支店  
2 期工事 株式会社乗田建設

## 特別賞 1 作品

一般建築物部門

## 黒石市役所わのまちセンター

【施主】黒石市

【所在地】青森県黒石市市ノ町2-1

【設計監理】梓・都市環境研・蟻塚設計共同体  
建築／渡邊和幸、土井英尚、岩崎奈央（元所員）、内川公貴、大野整、蟻塚学  
設計協力：アルキメディア設計研究所 高橋潤  
構造／宮坂大祐、山田隆勝、野村愛和  
設備／久米薫、宮澤沙也加、押久保正則、太田萌佳  
【施工】建築／高樋・南特定建設工事共同企業体  
電気設備／管電・北奥特定建設工事共同企業体  
機械設備／旭冷機・桜庭設備特定建設工事共同企業体

## 作品新人賞 2 名

作品名：山麓堂

**太田 健裕（株式会社太田設計舎）**

作品名：広瀬川沿いの東屋（リバーサイド・パークハウス）

**岩田 悠介（YWA / 株式会社ワイワ一級建築士事務所）**

(8) 講評

《作品賞》

【天童荘うなぎ勤治郎】

この建物は、老舗旅館である天童荘のうなぎ料理を提供する店ですが、あえて天童荘の外の道を挟んで向かい側に作ることで、旅館とまちが一体となり開かれた空間を創出することが意図されています。この建物の両隣には、先に建設されたガーデンカフェと天童温泉の源泉櫓があります。建物としては源泉櫓をL字型に囲む形状で、大小二つの屋根が架けられたシンプルなつくりですが、屋根と外壁のラインをガーデンカフェと揃えることや外壁を源泉櫓の板張りとも共通させること等により景観の一体感を作り出しています。また、2間幅の飲食スペースの両側は全面ガラス開口となっており、周囲の景観を切り取って眺める装置となっています。本作品の設計者は、無秩序な開発で天童らしさが失われた景観の改善を目指して、まちなかに複数ある源泉櫓のデザインコード統一、天童の里山特有の植物を寄せ植えしたユニットのまちなか展開なども推進しており、この場所を起点にまち全体の魅力向上へと繋げています。以上の点を踏まえ、東北建築賞作品賞に推薦されました。

【滝観洞観光センター受付施設】

JR 釜石線上有住駅の麓にある「滝観洞」入洞受付施設です。入洞料の徴収やヘルメットの貸し出しなどの業務を行っていますが、単なる観光のための受付施設にとどまらず、現在閉鎖中の隣接する集会所の代替として、地域住民が日常的に訪れるコミュニティ施設となっています。急峻な崖地に細長くへばりつくような特徴的な配置計画で、従前から営業していた人気の「滝流しそば」がより楽しく体験できるよう、丁寧なレベル設定が為されています。既存擁壁を再利用しつつ、新設の擁壁と分厚いコンクリート底盤によって土圧を抑え、滑動に配慮した土木的な設計が行われている点がユニークです。町産木材によって構成された空間は、住宅のスケール感を保った柱割りやサッシの割付などと相俟って、あたたかみのある内外観をつくり出しています。土地のレベル差に沿うように奥に行くにしたがって高くなる勾配屋根は、駅のホームからもよく見え、山あいの景観に無理なく溶け込み、小規模ながらも様々な工夫と住民の想いが込められた秀作です。以上の点を踏まえ、東北建築賞作品賞に推薦されました。

【大熊町大野駅西交流エリア CREVA おおくま・クマ SUN テラス】

東日本大震災および原発事故からの復興が進む大熊町において、町の玄関口である JR 大野駅前に整備された新たな生活・産業の拠点です。本施設は、オフィス機能を備えた「CREVA おおくま」と、商業施設「クマ SUN テラス」から成り、地域の原風景を継承しつつ新たな賑わいを創出しています。「CREVA おおくま」は、コの字型の配置や中央の吹き抜け、テラスやコワーキングスペースといった豊かな共用スペースにより、利用者同士の交流を促す空間構成が秀逸です。県産材を活用した木鉄ハイブリッド構造による温かみのある大空間は、大手ゼネコンの施工技術に裏打ちされた極めて高い完成度を誇ります。木の質感を活かしたV字斜柱や集成材の梁が、意匠性と構造の力強さを両立させることに成功しています。地中熱利用等のゼロカーボンへの先進的な取り組みも、高い水準で建築に取り込まれています。以上の点を踏まえ、東北建築賞作品賞に推薦されました。

【アグリカレッジ福島-アグリ探求棟・屋外作業準備棟・一般宿泊棟・学生寮-】

福島県内唯一の農業短期大学校における、研修棟・一般宿泊棟・学生寮のプロジェクトです。異なる機能別の建物を、全体として一つの村のような景観となるよう高さやボリューム感を揃えて設計し、違和感のない一体的なスケールに落とし込んでいます。分棟型とすることによって生み出される様々な大きさの外部空間を渡り廊下がつなぎ、辻の部分で学生同士の自然な交流が図られるようデザインされています。学生達が最も長い時間を過ごす寮棟には、外部に面して広い土間が設けられ、コミュニケーションの場となるだけでなく、収穫物を並べるなど農家の縁側のような使われ方も意図されています。研修棟には、外部からフラットに農機具を入れてそのままプレゼンテーション用のステージとなるレベル差が設定されており、近隣の農家の方々に向けたイベントにも積極的に利用されています。予算的な制約が厳しい中、丁寧なプランニングと緻密なボリューム操作によって構成されています。以上の点を踏まえ、東北建築賞作品賞に推薦されました。

### 【にしかわイノベーションハブ TRAS】

みんなでつくる“つなぐ・つながる場所”をコンセプトに「出来事づくり」を目指した、町づくりの拠点となる複合施設です。3つの円弧を基準とした凹型三角形の平面構成とすることで三角の不整形敷地と融合しています。周辺環境と呼応した屋外空間は「動」と「静」にゾーニングされ、町の風景と調和しています。円弧のRC壁は、内部空間を緩やかに間仕切り、室内をほどよい距離感で繋ぎ、フレキシブルで利便性の高い空間構成としています。開放感のある開口部は、自然豊かな環境を内部に取り込み、居心地のよい雰囲気を醸しています。雪対策を考慮した軒下空間は、屋外と室内を繋ぎ、様々なイベントに活用し、環境的役割を担う工夫もされています。町内産西山杉による木架構や、伝統工芸との連携など、地域との関わりによる取組みもありました。本プロジェクトではワークショップを幾度と開催し、より相応しい敷地に変更するなど、町民ファーストの施設づくりが実施されました。筆頭設計者の町に対する思いと、地域に根差した町づくりへの取組みも高く評価されました。以上の点を踏まえ、東北建築賞作品賞に推薦されました。

### 【平川市新本庁舎】

青森県津軽地方に位置する平川市に建替えの新本庁舎は、不定形な敷地の中央に正三角形の平面形庁舎を巧みに配置することで東側に整形の駐車場を確保し、約2.5m段差のある北西側の広場とは緩やかな勾配を設けて全体をひとつながりとしています。周辺道路のどこからでもアクセスでき、交差点から連続する広場もまちの居場所づくりを生み出しています。地域の象徴となる岩木山や遠方の八甲田山の山々と呼応するように三角形の各階全周に途切れなく連続する窓のデザインは、内部機能とも連動しながらのびやかに近景と遠景とを見事に一体化させた景観を生み出しています。三角形の特性から効率的な動線を生かすと共に、その二辺には奥行きのある執務空間を無柱でフレキシブルな矩形配置とし、もう一辺の北側から安定した自然採光を取り込む四層の吹抜け空間を介してすべての機能や動線を認識することができます。地域の風土から地下水の温度差を冷暖房エネルギーや融雪とする環境への配慮、免振構造の採用での災害拠点となる庁舎としています。以上の点を踏まえ、東北建築賞作品賞に推薦されました。

## 《特別賞》

### 【黒石市役所わのまちセンター】

青森県黒石市中町には藩政以来の町家と木造のアーケード「こみせ」からなる町なみが残されており、重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。本計画はそこからほど近い商業地域に建てられた、市役所の窓口機能と子育て支援、多世代交流機能を融合させた複合施設です。近隣では図書館も新設され、市役所本庁舎の建て替え計画もあります。本計画も、コンテクストを尊重しながら徒歩で楽しめる中心市街地を持続・再生させていく努力の一つとして高く評価され、特別賞の受賞となりました。本計画の魅力の一つは、不整形な敷地を使うにあたって要所に広場や中間領域を配置したことです。狭い間口で街路に接する部分にこみせ状の庇をつくり、そこから続く回廊で敷地中心に至ります。そこにひらけた広場「かぐじスクエア」は、重伝建地区にある街区内の余剰空間の伝統をなぞるものです。更に建物内にも二層吹き抜けの「あずまし広場」を設け、積雪の多い当地の冬に対応しています。これらの内外の空間が利用者の居場所となり、その交流を誘発することが期待できます。以上の点を踏まえ、東北建築賞作品賞に推薦されました。

## 《作品新人賞》

### 【太田 健裕（株式会社太田設計舎）】

建主のご夫婦が週末住宅として利用する平屋の住宅で、山の稜線に沿うようにカーブする屋根や格子ガラス戸による外観が印象的です。農作業や催しのため、土間や軒下が内部空間と連続する大きなワンルームで計画された平面構成は非常にシンプルですが、二重の木製ガラス戸の開閉で様々な利用できる空間が実現されています。設計者として、竣工まで一貫して担当した対象者は、地域の寄合所としても利用したいという要望を、様々な工夫の積み重ねと丁寧な仕上げで実現しており、東北建築賞作品新人賞にふさわしいと評価されました。

### 【岩田 悠介（YWA / 株式会社ワイワー級建築士事務所）】

本施設はイベントで使用した仮設建築を青葉山公園内の現在地に移設し、広瀬川を望む常設の東屋（休憩所）として再生した CLT+鉄骨ハイブリッド構造の建築です。本施設は、作品の質や技術的な挑戦については審査員一同から非常に高い評価を集めました。これに加えて、設計者が過去に仙臺緑彩館の設計を主任技術者として担当した経緯など、この土地との深い関りのなかで成し遂げた功績も大きいことから作品新人賞ふさわしいと評価されました。

### 第 46 回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長	・馬渡 龍	八戸工業高等専門学校環境都市・建築デザインコース
選考委員	・藤田 智己	仙台高等専門学校総合工学科建築デザインコース
	・西脇 智哉	東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻
	・佐藤 芳治	宮城学院女子大学生活文化デザイン学科
	・鈴木 真歩	岩手県立大学盛岡短期大学部生活科学科生活デザイン専攻
	・青笹 健	岩手県立大学盛岡短期大学部生活科学科生活デザイン専攻
	・櫻井 一弥	東北学院大学工学部環境建設工学科
	・齋藤 勉	(株) 平吹設計事務所
	・本間 弘	(株) 本間利雄設計事務所
	・後藤 伴延	東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻

以上

## 第46回東北建築賞業績賞選考報告

選考委員長 相模 誓雄

業績名：江戸時代から伝わる大工技術の継承と発展 および伝統的な木割術・  
規矩術による社寺建築の施工

受賞者：石川 吉登氏

石川吉登氏は、昭和51（1976）年に平茂寺立川流九代目を継承した大工棟梁です。平茂寺立川流初代佐々木嘉源治は、江戸時代の元禄年間（1688-1703）に三春藩領（福島県田村郡三春町）実澤村に移住して木匠を始めたとされています。二代目幸七の時、平茂寺立川流を名乗りました。江戸時代後期の天保年間（1830-1843）、四代目幸七忠則の時には、三春藩主に仕え、構武堂並びに御花畑御殿の造営に携わり、列士分、両帯刀を許されています。その技法は、七代目まで「秘伝口伝門外不出」とされていました。石川吉登氏は、佐々木家に弟子入りして修行を重ね、八代目幸七忠幸から免許皆伝を受け、九代目吉則吉登を名乗ることになりました。

石川吉登氏は、これまで大工棟梁として多くの寺社建築を手掛けてきました。その作品は、拠点としている福島県郡山市を中心に、東北地方から関東地方へ渡っています。福島県大沼郡会津美里町の岩代国一之宮「伊佐須美神社」では御用達職人として、平成元（1989）年に楼門を手掛け、焼失した本殿・幣殿・拝殿の再建に尽力しています。また、埼玉県日高市の「聖天院勝楽寺」でも御用達職人として、本堂・庫裡・中門・客殿・鐘楼堂を手掛け、令和6（2024）年には多宝塔を完成させました。この多宝塔は、石川吉登氏の大工棟梁として技術の到達点といっても過言ではありません。国宝の石山寺多宝塔（滋賀県大津市）を手本としており、過去の木匠に学ぶ姿勢は、一貫しています。また、多宝塔は、二重の塔で、円形平面の上層部に方形屋根をのせた、大変難しい木造建築ですが、組物の緻密さ、屋根の反りの美しさ、均整のとれた外観など、見事な出来栄です。

石川吉登氏の作品に特徴的なものの一つに彫刻があげられます。これは、流派の特徴でもあります。作品には中世的な簡素な墓股から豪華で複雑な丸彫の龍まで多様で豊富です。いずれも見事な出来栄です。また、伝統技法を継承するだけでなく、独自の創意工夫がなされています。例えば、組物の巻斗は、平面が正方形でしたが、スリムに見せるため、平面の一辺を6寸2分、もう一辺を7寸2分の長方形にしています。この改良に10年の歳月をかけています。

以上、石川吉登氏は、「1）地域の建築やまちなみ景観などの環境の保存・修復・再生・継承・新たな創造」などの視点において評価でき、東北建築賞業績賞に値する人物であると判断します。

第46回東北建築賞業績賞選考委員会

委員長：相模 誓雄

委員：浅里和茂、有川 智、浦部智義、村上早紀子、西川竜二、後藤伴延（常議員）

## 第 46 回東北建築賞研究奨励賞 選考報告

選考委員長 高木 理恵

本年度（2025 年度）の研究奨励賞への応募論文は、環境工学分野において、西山陽歌氏（東北大学博士後期課程）から提出された「不織布を用いた通電再生型デシカント空調用除湿媒体の検討及び振動式質量測定器を用いた水蒸気吸脱着量の測定・評価」の 1 件と、構造分野において、車瑞昱氏（東北大学博士後期課程）から提出された「Lateral Buckling Behavior of Composite Beams Under Cyclic Unsymmetric Bending」の 1 件、合わせて 2 件であった。

西山氏の論文は、従来の温風再生に対し、再生用熱源や加熱コイル等が不要で単純・小型化や制御性の高さが期待できる通電再生型のデシカント空調に関するものである。導電性ポリマー PEDOT-PSS を用いた通電再生を試みるため、PEDOT-PSS を添着させる基材の検討を緻密に積み重ね、最終的に不織布を基材とした除湿ユニットの開発と、その除湿性能の秒単位の評価法の開発に至った点に新規性が認められる。結果として、試作した除湿ユニットに対する水蒸気吸脱着量の測定と評価により、実用化可能な除湿性能が確認された点に今後の発展性が認められる。

車氏の論文は、鉄骨梁とコンクリート床スラブの合成効果を確保するために用いられる機械的ずれ止めに関するものである。従来合成梁に用いられて来た頭付きスタッドでは、特に梁スパンが長くなる場合において、地震時等に負曲げを受けると溶接部において早期にスラブにひび割れが生じること、スラブ合成効果の梁横座屈補剛効果について未解明な部分が多いことを指摘している。これら課題の解決に向けて新型のパズル型ずれ止めを用いた緻密な部分架構実験を実施し、その優れた横座屈補剛効果と変形性能を明らかにしている点に新規性と今後の発展性が認められる。

出席委員による議論では候補論文に近い専門分野の委員からの補足説明があり、また、若手研究者に広く受賞の機会を与えるという奨励賞の趣旨に沿う形で 2 名の候補者の受賞に肯定的な意見が主流であった。

上記の候補者 2 名の研究について、出席委員の評価と欠席委員による事前報告書の内容とを併せて集計した結果は、出席委員 9 名がすべて合格、欠席委員からの事前報告においては 1 名が合格、1 名が出席委員の判断に一任となり、選考委員会の全委員数の 3 分の 2 以上の賛成により両論文が研究奨励賞に相応しい業績であることを承認した。

第 46 回東北建築賞研究奨励賞選考委員会

委員長：高木理恵

委員：西田哲也、五十子幸樹、齋藤俊克、菊池義浩、刈谷智大、中村琢巳、長田城治、石田泰之、浦部智義、山本和恵（常議員）